

主の公現

第一朗読 イザヤ 60・1-6
第二朗読 エフェソ 3・2、3b、5-6
福音朗読 マタイ 2・1-12

2022.1.2

カトリック高円寺教会

ジョン・ジュン神父（クラレチアン宣教会）

新年あけましておめでとうございます。2022年、今年もよろしく願いいたします。

今日は主の公現の祝日です。

パレスチナは交通の中枢に属し、紛争の地でもあり、ここは異なる民族と文化と言語が混合された地域であります。この地もエジプトとメソポタミア王国に侵略され、占領されたことがあります。長い間イスラエル民族は彼らの侵略者に報復することを望んでいました。

この星がイスラエルに現れた時、神の約束は実現しました。この光によって先祖の苦しみの暗闇は追い払われ、全ての民族が一つの大きな家族になるのです。今日は光の祝日をお祝いしましょう。

イザヤの預言：

紀元前587年の悲しい事件が強調されています。エルサレムが破壊され、都市は廃墟となりました。預言者から見ると、イスラエルは、まるで未亡人のように孤独で、独りぼっちで座っていて、夫を失い、子供が奪われ、異邦人のところに追放され、落ち込んでいるようでした。

「闇は地を覆い、暗黒が国々を包んでいる」。預言者が伝えたいのは、追放された人たちが亡命し、困難を乗り越え、きっと戻って来るということです。イスラエルは主の約束を信じて、この信念は光となり、希望と慰めを待ち望んでいました。

エフェソの手紙：

イスラエルに秘められた計画は理解されませんでした。従って、神は自ら救いの計画を全ての人に啓示しました。救いを受けるには特権はいりません、異邦人も受けることができます。

マタイ福音：

今日の福音に占星術学者の人数の記載はありませんでした。彼らは知恵を持ち、多くの人から敬慕されていました。重要なのは神がユダヤ人より先に、異邦人にキリストの光を見せたことです。

マタイは「この星は天からではなく聖書の中におられます」と言っています。マタイは旧約のことを詳しく知っています。旧約の民数記にこの星の預言が記載されていました（民数記24・17－19）。バラムが言った通り「わたしには彼が見える。しかし、今はいない。彼を仰いでいる。しかし、間近にではない。ひとつの星がヤコブから進み出る」。ですから、この星は空からではなく、イエス様こそがこの星であります。

占星術学者の話にいくつかの例があります。大事なものは誠実さ、忍耐力、真理を探す心を持つことです。そうすれば、異邦人が神様の光に出会うことができます。

イエスの光を受け入れるには、心を開くことが必要です。もし、わたしたちが自分の部屋にいて、ずっとドアも窓も閉まったままなら、外から誰も入ることができません。暗闇が続くと、いつかホコリや蜘蛛の巣が溜まり、カビが発生してしまいます。人間の心は部屋と同様です。光が必要です。外との交流が必要です。

現代社会では、多くの人が心の病を患っています。よく聞くのは、うつ病です。プレッシャーや裏切り、傷害、恐怖など色んな原因があります。自分を守るため、傷つかないように、人間は本能的に心を閉ざしてしまいます。外との連絡を断ち、コミュニケーション・カットをしてしまいます。自分の殻に閉じこもってしまい、未来に対する希望を失い、人生の目標が見えなくなり、一日一日がつまらなく感じてしまいます。わたしの周りの人にも自分の生活を「ああ、つまらない、つまらない」と言う人がいます。

しかし、ここで、2022年の始まりの時に、皆さんに覚えて欲しいことがあります。仕事や人間関係でいくら失敗しても、イエス様はわたしたちをずっと愛しています。わたしたちの隣にいます。だから、落ち込まないで欲しい。人生に希望を持って欲しいです。

今日は光の祝日です。わたしたちは、イエスさまの前に、開いた心を捧げ、人生を導いてくださるよう祈りましょう。